

# 西の菜時記

特集：「維新への道」大田・絵堂の戦いから四境戦争まで

◆山口市菜香亭 〒753-0091 山口市天花1丁目2番7号 TEL:083-934-3312 FAX:083-934-3360◆

平成27年3月31日発行  
第36号

発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

幕府への抗戦を叫ぶ革新派の中心人物高杉晋作は、状況の展開を読んだ、一八六四年12月15日下関功山寺で公家の三条実美に「長州男児の肝っ魂をお見せしましょう！」と言って決起しました。それに即座に付き従ったのは、伊藤博文率いる力士隊と所都太郎率いる遊撃隊でした。晋作は下関の萩藩会所を襲い、その後海路で防府三田尻の海軍局を襲い、癸亥丸を奪いました。また、山県有朋率いる奇兵隊や八幡隊、南園隊などの諸隊は最後の話し合いを求めて萩城下町へ向かって進軍していききました。一方で高杉晋作は山口の庄屋吉富簡一に密書を送り、軍資金の調達と井上聞多の脱走を相談しました。

一八六五年1月6日、話し合いの余地なしとみた奇兵隊諸隊は、絵堂（美祢市）に陣取った藩政府軍を夜襲しました。内戦の始まりです。16日までに大田・絵堂で四回戦い、奇兵隊諸隊が勝利しました。この勝利には民衆の応援が大きくなっていました。

## 保守派VS革新派による内戦〜大田・絵堂の戦い〜



(右)高杉晋作(左)井上聞多の等身大パネルがお迎えした。

禁門の変後、幕府への謝罪を決めた藩政府は革新派の諸隊の解散を決めました。しかし、諸隊は従わなかったため、いざとなったら弾圧しようと思兵を出す態勢にはいりました。

幕府への抗戦を叫ぶ革新派の中心人物高杉晋作は、状況の展開を読んだ、一八六四年12月15日下関功山寺で公家の三条実美に「長州男児の肝っ魂をお見せしましょう！」と言って決起しました。それに即座に付き従ったのは、伊藤博文率いる力士隊と所都太郎率いる遊撃隊でした。晋作は下関の萩藩会所を襲い、その後海路で防府三田尻の海軍局を襲い、癸亥丸を奪いました。また、山県有朋率いる奇兵隊や八幡隊、南園隊などの諸隊は最後の話し合いを求めて萩城下町へ向かって進軍していききました。一方で高杉晋作は山口の庄屋吉富簡一に密書を送り、軍資金の調達と井上聞多の脱走を相談しました。

## 長州藩の大転換〜維新への道

菜香亭では企画展「没後100年間多復活」と題して井上聞多（明治以降井上馨）の生い立ちから内戦を経て明治維新を迎えるまでを特集しました。それを参考に紹介します。

今から150年前の長州藩は、革新派と保守派の激しい内戦の末、革新派が実権を握るといふ大きなうねりの中にありました。

革新派には士分のものでなく商人や農民が参加し、まさに「草莽崛起」、民衆の力が結集し大転換を起したのです。



奇兵隊の本陣。美祢市大田にある金麗社。1800人を超える人夫が召集された。



萩政府軍が陣をとった絵堂宿。1月6日諸隊が奇襲をかけ内戦の口火をきった。

## 維新の志士たちを陰で支えた地元名士たち

少数の革新派を応援したのは、豪農であり地域の名士だった人々でした。藩からは奇兵隊諸隊などの反政府軍に味方したら厳罰に処すとのお触れが出ていたにもかかわらず覚悟の上の行動でした。

中でも山口宰判（宰判は今でいう「市」のようなもの）の吉富簡一や小郡宰判の林勇蔵はとても協力的で、この助けがなければ革新派が保守派を圧倒することはできなかったでしょう。軍資金、食糧、馬の調達、またそれらを運搬する人夫を地域の農民によびかけ、多い時には千人、八百人と戦地に送りこみました。



吉富 簡一



林 勇蔵 銅像

吉富簡一は、山口市矢原の庄屋吉富家に生まれましたが、国事に奔走し、倒幕の志士たちのためずいぶん献金しました。藩庁移転に伴い重臣周布政之助が萩から山口に出てきたとき、仮住まいしたのも吉富家でしたし、井上聞多が辻斬りで重傷を負ったとき一番に駆け付けたのも簡一でした。

林勇蔵は、山口市小郡地域の開墾や、洪水の多い榎野川の整備をしたり地元農民のために尽くし、今でも地元の人に崇敬され語りつがれています。

## 聞多復活〜いきなり鴻城隊総督に

袖解橋で重傷を負った井上聞多は療養後、実家に幽閉されていました。保守派が実権を握っていたので、もし聞多が逃亡したら家族親類一族は処罰されるという重い刑でした。

## ◆菜香亭市民ギャラリー出展作品紹介・予定表◆

### <市民ギャラリー出展作品の紹介>

てぬぐい展〜しかけのあるてぬぐいと山口のてぬぐい vol.4  
—山口県立大学文化創造学科— 1/23〜1/25



やわから写真展〜時間旅行〜  
—yawaColor 山口若者カメラライフ— 2/5〜2/8



わんこの紙粘土展〜いぬのはなし〜  
—正札和誇— 3/6〜3/8



出展ご希望の方は、2ヶ月前までにお申し出ください。

〜笑顔の輪がひろがる山口〜 ほのぼの絵手紙作品展  
—やまぐちぼすと倶楽部— 2/5〜2/8



### <平成27年度 市民ギャラリーの予定> 5・6月

月日	時間	タイトル	主催者
5/16 〜17	10時〜17時 (最終日のみ16時まで)	第6回フレッシュフラワー&プリザードフラワーアレンジメント作品展〜花燃ゆ〜	フラワーサークル「デンファレ」
5/27 〜31	9時〜17時 (最終日のみ16時まで)	山口の花鳥風月 (日本画教室生徒作品展)	佐々木経二日本画教室
6/10 〜15	9時〜17時 (最終日のみ16時まで)	クレイアート作品展〜癒しの空間で豊かな心を育む山口〜	クレイアート工房「茶和茶話」

(お問い合わせ)

TEL : 083-934-3312

FAX : 083-934-3360

## 菜香亭とフキノトウ

菜香亭初代館長 福田礼輔

フキノトウはキク科の多年草であり、早春を迎えると若い芽の薄いみどりの穂先が目立つようになり、食べる少し苦味はあるが季節的な香りをたのしむ山菜である。

現在の菜香亭の北庭の一角に移植された若い秋田ブキの芽が出てきた。

移築以前、八坂神社近くにあった旧菜香亭の150畳敷大広間に面した庭一面は茎長2メートルを超える大型秋田ブキが葉を一面にひろげており春から夏にかけて訪問客達をおどろかせていた。

昔から春の料理には苦味を盛れということばもある。春は冬の間から夏の暑さに対抗する体力維持の季節である。その点で苦味を持つフキノトウは塩分や脂肪を緩和するので、生のままか天ぷらにするのが最高でありミソ汁にそのまま刻んで散らすのも良い。

ことしの2月、東京バベル出版社から、往年の植物学の泰斗牧野富太郎博士の大正時代の名著「植物記」正・続2巻が復刊された。

その一節に「日本植物の誇り秋田ブキ、がある。

＝2百年前にも寺島良安の和漢三才図会に「奥州津軽産の秋田ブキは肥大にしてクキの周囲四、五寸。葉の広さ三、四尺。傘にして雨を防ぐ」とありさらに「秋田ブキは東北から北海道にかけて生ずるが、なお北上して樺太にも産する。このフキは南から北へ行くほど大きくなる。秋田ではその太い葉柄を砂糖漬の菓子として売っており、またフキ摺りと呼び葉面を布地又は絹地に刷っている」と書かれている。

草の戸に春は来にけりふきのとう 一茶

この句には草深い雪国でフキノトウの芽ばえを喜ぶ心にあふれている。

信州ではフキボコと呼ぶ。



現 菜香亭に移植した秋田落(今年も芽吹きました。)